

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	川上 和美
通学キャンパス			
論文題目	隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムの開発と 感染管理実践および医療関連感染防止への効果の検討		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本研究は、副論文で明らかにした「隔離予防策に関する感染管理認定看護師の問題解決プロセスの概念枠組み」を活用し、隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムを開発し、感染管理実践および医療関連感染防止における隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムの効果を明らかにすることを目的としている。認定登録後 1 年未満の感染管理認定看護師 28 名を対象にしたランダム化比較対照試験により、隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムが「隔離予防策の対策決定・実施」、「感染管理認定看護師の考え方を支持」、「感染リスクアセスメント能力向上」に役立つことを明らかにしている。一方、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌とクロストリジウム・ディフィシルの発生件数、発生率、アウトブレイク発生件数については群間差を認めず、医療関連感染防止の効果は明らかにするまでに至らなかった。</p> <p>2) 研究方法、論証、論文形式の適切さについて</p> <p>本研究は、本大学院倫理審査委員会から承認を受け、施設長、研究対象者への研究協力依頼書をもって同意を得て実施している。また、対象者を所属施設の病床数に応じて 3 つのブロックに分類し、層化ブロック無作為割り付け法により、実験群と対照群に割り付けたうえでデータを得ている。また 2 つの研究目的に沿い、適切な統計学的分析法によって結果を導いている。論文は、序論、文献検討、本研究の意義と目的、隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムの開発、研究方法、結果、考察、結論で構成され、文献の引用についても適切である。</p> <p>3) 知見の新規性と価値について</p> <p>本研究の新規性は、副論文で得られた「隔離予防策に関する感染管理認定看護師の問題解決プロセスの概念枠組み」を活用し、Web 上で閲覧・使用できる隔離予防策決定支援アプリケーション・プログラムを開発し、プログラムが「隔離予防策の対策決定・実施」、「感染管理認定看護師の考え方を支持」、「感染リスクアセスメント能力向上」に役立つことを明らかにしている点にあり、今後さらなる改良検証により、施設全体の感染管理、患者安全向上および国内感染管理の質向上に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 口頭試問においては、適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (看護学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 糸井 裕子</p> <p>副 査 荒木田 美香子</p> <p>副 査 池田 俊也</p>		